

川村ひろあき活動レポート

2019.01.01 Vol.161

川村ひろあき事務所：千葉市花見川区花島町480-6

広げよう国際交流・友好親善の輪！！

台湾・新北市で桜の植樹を実施しました。

◎第14回千葉市「花の旅団」の活動

2018年11月22日から25日まで3泊4日で台湾・新北市、台北市、花蓮市を訪問し、桜の植樹をはじめとした国際交流活動を行なって参りました。

この植樹ツアーは、2005年から始めた千葉市「花の旅団」の第14回目で、過去8回は千葉市の友好都市である中国呉江市で行い、台湾・新北市での植樹は昨年につき6回目でした。[今回の参加者数：12名]

行程は22日に日本を出発し、台湾・台北市に到着。23日は新北市坪林区緑光農園を訪問し、新北市の方々と共に記念植樹を実施し、そして新北市主催の昼食会。その後同市平溪区へ移動し、十分瀑布を見学の後、十分に天燈（ランタン）上げを実施。その後台北市に戻り、新北市との夕食会を開催。24日は日帰りで花蓮市を訪れ、太魯閣溪谷や七星潭海岸を視察・散策。夜、台北市に戻り、夕食後、地下鉄を利用して士林に移動し士林夜市を散策。25日は台北市内で、中正祈念堂などを見学の後、空港に移動し、夜、成田に帰国しました。

今回の訪問は最終日（25日）を除き、何れも雨の日で、記念植樹も雨の中実施するというアクシデントに見舞われましたが、一定の成果を挙げられたと思います。

これからも、千葉市「花の旅団」の活動を通じて、市民レベルの草の根の国際交流を続けていくことで、少しでも国際友好親善の一助になればよいと思います。

これからもご支援・ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。



新北市坪林区緑光農園にて記念植樹の様子



記念植樹の現場にて



夕食会にてお土産の贈呈



昼食会場のレストランの前で

◎新北市坪林区について

新北市坪林区は、面積171km²。人口6500人の新北市の東北部の山間部に位置する区で、2010年に新北市に改編されるまでは坪林村（坪林郷）でした。

坪林区は包種茶の産地として知られており、丘陵地帯を利用して茶葉が栽培されている台湾北部を代表する茶所です。また坪林老街（区の中心部）は台北と宜蘭を結ぶ山間の道（北宜公路）の中間地点として、栄えておりましたが、台北と宜蘭を結ぶ雪山トンネルの開通により、現在は往時の面影を残すだけとなっております。

◎緑光農園について

緑光農園は新北市坪林区の丘陵地帯の山頂にある茶畑で、陳陸合さんご一家が経営されております。

お伺いした日は雨だったので、農園の見学ができず、紹介ビデオを見せていただきましたが、農園は台北の水瓶と呼ばれる千鳥湖を見下ろせる場所に位置することから多くの動植物に恵まれていること。水源を守るため、農薬は使わず自然農法で茶葉を栽培していることが紹介されました。また、農園の中には、茶葉を乾燥させ、ウーロン茶などを作る製造設備もありました。



台湾の茶摘みの格好をして



緑光農園にて

◎編集後記

今回の訪問は、4年に1回の台湾の統一地方選挙〔投票日：11月24日（土）〕

が行われている時期に重なり、新北市でも、市長選と市議選が行われている真っ最中で、植樹当日（23日）も、投票日が翌日なので、国際交流課の担当者も植樹と交流会の後、すぐに役所に戻り、開票準備作業に駆り出さされるとのことでした。

また今回の植樹は、台湾の茶摘みの格好をして行うことになり、藁で編まれた茶摘みの帽子をかぶり、竹で編まれた茶摘み入れを腰につけ、その上から雨合羽を羽織りました。

その時の写真を掲載しましたが、まるで「仙人」になった気分でした。

台湾新北で桜植樹

市民団体「花の旅団」

国際交流に関心を持つ市民グループ「花の旅団」（川村博章団長）が、台湾の新北市を訪れた。小雨が降りしきる中、千葉市と新北市の友好交流の証しとして桜の植樹を行った。写真。

同グループは花を通じて国際交流を図ろうと毎年台湾を訪問している。今年メンバー12人が入国。新北市坪林区緑光農園で同市関係者らと、両市のさらなる友好を誓い桜を1本植樹した。



同グループの海外訪問は14回目。同市での植樹は6回目を迎え、川村団長は「両市の長い友好関係を期待して植樹した。今後も交流していきたい」と話した。

千葉日報朝刊 2018年12月1日

◎川村ひろあき事務所

※市政に関するご相談・ご意見・ご提案などお気軽にご連絡下さい。

〒262-0042

千葉市花見川区花島町480-6

TEL: 043-250-1021

FAX: 043-250-0071